

# 市長と語ろう地域懇談会 記録

【日時】平成24年5月7日（月）午後6時30分～8時10分

【会場】麓郷集落センター

【対象地域】麓郷地区

【出席者】25人

担当部	意見・要望などの要旨	回答の要旨
経済部  経済部・ 保健福祉部	<p data-bbox="322 411 801 448">何年後を目途に考えていますか？</p> <p data-bbox="286 608 1220 930">今聞いていると、都合の良い話はたくさん出て来ますが、デメリットだってあると思います。メリットばかり言って要するに将来こうなるだろうという話を言っていますが、街の中にどうして子どもを育てる場所を作らなければならないのか。安全・安心という立場から考えるのは、街の活性化とはちょっと違うと思います。その辺で、ちょっとまだ検討する余地があると、私はそう思います。</p>	<p data-bbox="1238 411 2170 544">【市長】現在計画していますが、実施にあたりましては、建設計画については、26年度、もしくは27年度にかかるという状況です。</p> <p data-bbox="1238 608 2170 1457">【市長】今ご意見いただきました。それぞれ会場を回っていると、今お話したようなご意見もあります。行政の考え方というのは、先ほどこども園の説明をした通り、これからの時代というのは市民みんなで子どもを育ててというのが基本になるだろうという考え方です。このこども園の法律そのものが、保育を基本にしていないということです。教育を基本にして育てて行くというのが、これからのこども園の大きな考え方です。今ご意見あった形の中で、他の地域でも雄大な所で、そして伸び伸びと子どもを育てるのが当たり前だというご意見もありました。行政としては、理想としてはわかるわけですが、現実的に今、保育の在り方を考えた時に、保育士だけの力では子どもを育てて行くことは、私は難しいと思います。ですから、多くの年代の方々が子どもに触れ合って、育てて行く過程が、これからの教育に絶対必要だと考えています。そういう形の中で、街の賑わいを取り戻すというのが、商店街でも言っていましたけれども、お客さんが来るから商売に結びつけるのは、もちろんかもしれないけども、子どもの触れ合いということが、これから商店街にも必要だというご意見もありました。行政としては、そういう基本的なことを押さえるのと、</p>

それから、中小企業の振興策の見直しをしました。これは先ほど経済部長の方からお話しましたが、72%の人が商売をこれからやるかやらないか決められない状況にあるというデータが出てきました。行政としては、富良野市の商店街を観光ばかりで補うと言う訳にはいきません。ですから、その人たちが生活できるような形を作る、新しい人が入ってきて商売をしていただけるような状況を作るということです。一つは、今は商店をしている人たちに、新しく入って来た方々が家賃を借りる場合は、家賃の助成をする、店舗を改築する場合は、店舗の改築の助成をするさらに、銀行からお金を借りる場合は金利の補てんをするという形を今年の5月から実施することにしました。そうすることによって、過日説明会を行いました、だいたい20人以上の方が内外から申し込んで説明会に来ていただきました。これから富良野市街というものは、既存の商店ばかりでなく、新しい人が富良野に来て商売をしていただけるような、そういう状況を作ることが、これが一つには人口の増加にも繋がって行く要素になるということが一つあります。

それと今お話ししましたこども園の設置ですが、今現在中央と麻町とそれぞれあります。現実的な問題として、今ある中央にしても麻町にしても、かなり課題があります。住んでいる方々から市に対して、うるさい、それから車が朝と夕方に殺到しますから、かなり市に対して抗議の状況があります。ですから、少なくともそういう住宅街に建てることについては、これは今までの長年の状況から考えてみますと避けなければならない問題です。このようなことも含めて、先ほど3点についてご説明をさせていただいて、今の現在のこれからの子どもの成長を見守るということであれば、商店街でもこの問題を提供した時に、十分検討させていただいて、過日新聞にも出ていましたけども、商工会議所はじめ、東

経済部・  
保健福祉部

出生率が少なくなったのを止めるために、どういう対策をとっているのか。その説明は今無かったですが、お聞きしたいと思います。

5条の商店会、振興会、そして住んでいる幸町の町内会の方からも、ぜひ事業推進をしてくれという要望書が市にあがって来たところでもあります。ですから、いろいろな角度でいろいろなお話がありますが、これからの富良野市の状況を考えた時にどこが望ましい場所なのか、将来そういう状況の中で市街地の形成が崩れないような、そういう街並み、人並みそういうものを作っていくことが、行政を預かるものの一人として私は必要だと考えているところです。今お話のあった問題については、お話しがあったということで受け止めたいと思っています。

【市長】これは大変難しい問題です。それぞれ個々の人の結婚してからの生活状態や経済状況がどうなのか。その経済補てんをどうやってするかという、今お話しに繋がると思いますが、そこが一つ行政として難しい問題です。もう一つは、まず産んでいただく状況が安全なのか、安心なのかということで、今富良野の協会病院はご承知の通り、産婦人科医2名と小児科医3名体制で行っていただいています。これは今北海道で、250床くらい入院患者を要する総合病院としては、北海道でただ1カ所です。産む体制の安全と、育てるための補完的な役割をしていただく小児科の体制というのは、北海道でも有数な病院であります。ですから、恐らくこれから産む体制については、地元の沿線、1市3町1村の方々は、旭川まで行かなくても、富良野で産む状況ができたということ。これから産んでいただく条件整備になってくるということです。

それから次に、今ご質問ありましたけれども、産んでもらう体制をどうやって作っていくかということ、これは経済の活性しかありません。個々の仕事を作るとするのは難しいですから、相対的な問題としては、企業を誘致するような状況づくりをして、若い人

が働けるような状況づくりをしていくということが、大切なこれからの行政が取り組んでいかなければならない課題の取り組みであると今考えています。ですから、今すぐにどうするのかと言われることであれば、経済的な支援という形しかないと思います。それだけで、その街の健全な育成というか、成長という形にはならないと思います。新しいそういう方々を呼んで働ける職場づくり、企業誘致、こういったことをやはりこれから積極的に行わなければならないと思っています。

もう一つは、富良野において農業、観光、そして私の掲げる環境の3つのキーワードに対して推進していますが、特に農業問題は先ほどちょっと触れましたが、担い手の対策というのは、地元の人はもちろんですが、他から行ってみたいという若者が、富良野に対してあるということは、これからの希望の持てる状況づくりの一つと考えます。もう一つは、既存の中でそれぞれ後継者の問題を考えているお父さんやお母さん、どうしたらその人間が真剣に考えて後継できるような状況づくりができるのか、これは今年から4つの柱の一つである人づくりの中で、行政もバックアップを関係団体と行うということがあります。

三つ目には、他から来ていただくという意味においては、他から来ていただくというのは、この約5年の間に、市役所の窓口を通したのが42組の93名います。市役所の窓口を通さなければ100名以上の方々が富良野に移住をしていただいている。そういう働きをしながら、その人たちが何を職業としてこれから富良野に定着をしていただけるのかという調査も現実的に行う必要性が出て来たと、そんな感じを今強くしています。ご質問のありました会場は、3つか4つの会場から増やす対策はないのかというお話があります。しかし、今の状況では、ただいまお話したことを起業的なものも含めて、行政がやはり先頭になって行う状況

経済部・  
保健福祉部

広大な計画聞かせていただきました。何事にも予算が付き物です。この予算の関係が一言も出て来ないということですね。これは予算の出所、国からも出るでしょうし、行政からも出るでしょ

づくりをしなければならないと思います。

もう一つは、言わせていただければ環境であります。これから富良野は新エネルギーだとか、再生エネルギーの状況づくりには、ある程度適している場所かもしれません。例えば、環境の問題については今北海道大学と富良野市は、連携をしながら研究をさせていただいています。木材を利用したエタノール作りの新エネルギーの開発問題。それから今、固形燃料でみなさん方にそれぞれ分類をしていただいている中身から、農家の俗に言う加温をするボイラーにすることによって、家庭燃料から代われるような状況づくりができないかということで、今北海道大学の方と連携をしながら研究させていただいています。もう一つは、小水力の発電の関係ですが、今年から東京大学の方と河川の活用について、協議をさせていただいています。これが正式に終われば、試運転を行うようになります。それによって電気が起きますから、富良野は結構用水というのは、ここばかりでなくたくさんあります。そういう所にこの小水力の発電を活用して、農家の方に電気を送るような状況も合わせて、環境と観光、よく風車でオランダの風車が有名ですが、小水力の発電の形をこの富良野地方にも行うような状況づくりをし、それによって企業的なものも増えるかもしれません。ですから、そういう状況も合わせ持ちながら、これから富良野のまちづくりや人づくりを含めて行う必要性があると。答えになっているか、なっていないか、分かりませんが、そういう形でこれから進めて行くのが一番望ましい姿とそんな感じをしています。

【市長】中心市街地活性化基本計画で、先程経済部長の方から説明しましたが、この整備計画というのは、ふらのまちづくり会社が行うということになっています。このまちづくり会社として

うけれども、そういった予算の関係について、聞かせていただければと思いますが。

は、何を行うかということで先ほど計画している事業をお話しさせていただきました。ネーブルタウン構想だとか。国は経済産業省の補助事業として、この事業を行う上において、共有する部分については、国が3分の1、行政が3分の1、事業主のふらのまちづくり会社が3分の1という財源の振り分けであります。総額について、いくらかかるのだろうというお話ですが、議会でも答弁をしている中身では、総合こども園を抜いて、だいたい27億程度予算がかかると、このように今まちづくり会社の方では、報告を市の方にされている状況です。そういう中で実施するわけですから、市もこの中心市街地活性化の事業に対しては、この総合こども園とそれからここで行う区画整備事業の負担分が当然3分の1出てきますから、それらの負担について合わせますと、だいたい10億から11億くらいの負担が出てくるという感じを今持っています。概算であります。

平成18年に市長に就任して以来、ご承知のとおり3カ年間、財政再建計画を立てて行ってきました。議会の方もご同意を得て、特別会計・一般会計含めまして30億くらいの長期の借金をお返しすることにしました。ですから、一方ではそういう形の中で行い、それから18年以降の状況では17年に公営住宅の建設の中止をしましたが、今年からそれを再開します。残念ながら、職員も45名カットしました。これは職員を増やさないと、そういう状況を努力して、30億くらいの借金を減らしたという現況です。

行政としては、そういう上に立って、これから議会の同意を得ながら、この事業というのは今後富良野市のこれからの状況を考えた場合に、絶対に必要だという状況ですから、今保育所についても、二つあるものを一つにするということです。どこの会場だったか忘れましたが、保育所でどのくらいかかっているのかとい

うお話がありました。全体でだいたい2億8千万円くらいかかっています。人件費入れてです。その内、保育料で4千万円くらいの保育料が戻ってきますから、だいたい2億3千万円から2億4千万円が、この保育事業だけでかかるという現況であります。ですから、行政としては、その会場の中で、将来直営であるのか、しないのかといった質問を受けましたので、基本的には直営によって他の民間よりも、現状の中では預けていただく状況を作っていくという基本的なものを、変えるべきでないという考え方で、現実的には保育事業だけで2億4千万円かかる。昨年の4月から、保育料10%削減をしています。これで、だいたい600万円くらい削減をしました。600万円を一般会計で補うことをしていかなければならないということで、それを補っているというのが現状であります。

ですから、この間、いろいろ話した中で、0歳から18歳までが子ども子育て支援です。保育所に入っているだけが子育て支援ではないということをご理解いただきたいという感じであります。協会病院の婦人科のお迎えするだけの費用も、沿線含めて費用負担しています。現実の問題として。小児科でも同じであります。そういう支援的なものを0歳から18歳までに、予防接種の助成の問題、入院費用の助成の問題、こういったものも含めて子ども支援というのは一部の部分ではなく、総合的な中で予算の配分を考えて行っていくというのが行政の在り方だと私は感じています。もちろん、議会でチェックを受けます。議会がダメだということであれば、これはやむを得ません。しかし、ダメと言われないような状況づくりを、していくというのが行政の在り方だと今考えていますので、今の予算の問題について、質問がありましたお答えはさせていただきました。

<p>総務部</p>	<p>環境の問題で、先ほど調べるという話をしていたと思いますが、このゴールデンウィークに調べるのが一番妥当かなと思いますが、時期的にいつ調べるのですか？</p>	<p>【総務部長】時期的には、やはり観光シーズンにかかった時期で、なおかつ土日も含めて、どうなのかということで考えています。実は、北海道のほとんどの町は非常に空気が綺麗だということで、大気の汚染状態を調査する機械が、非常に調達するのが非常に難しかったということで、ゴールデンウィーク中は、調達できませんでしたが、明日ようやく機材が入って来ますので、5月11日から17日までの1週間、連続して行います。土日が入った中で、行うような形です。場所についても、中心市街地の部分、お話やご意見があったところが1カ所。それからもう一つは、麻町保育所の周辺。そして、中央保育所の周辺の3カ所を調べるという形で準備を進めています。その中では、平均値・最低値・最高値といった部分について、排気ガスとそれ以外の空気中の浮遊物についてもチェックします。そういったことを行えば、おおむね富良野の状況というのが把握できるということで、これは専門の業者5社を調べた中で、そういった話が出て来ましたので、その中で決めているということです。</p>
<p>総務部</p>	<p>この間のゴールデンウィークですが、さすがに駐車場が足りなくて、路上駐車がいっぱいありました。そういうことで、考えていることがちょっと甘いのではないかと思います。そして、今はもう駐車場ガラガラです。この時期から1週間調べますと言われども、トップシーズンの時と比べたら全然値が変わってくると思いますが。</p>	<p>【総務部長】実はこの値も、専門業者に確認をしています。特に駐車場の真ん中、例えば、マルシェの真ん中で調べるといったことではなくて、平均値がきちっと出るような場所、そういった所で調べるということが、一番大切であるということで場所を選定しています。今お話しされた部分について、私たちも確認をしましたが、そういった問題については、影響を受けない場所で調べるというのが一般的で、他の大都市でも、他の所でも行っているということで聞いています。</p> <p>【市長】この調査をなぜ行うかということで少しお話しますが、数ある（懇談会）会場の内、麻町の会場でお話ありました。ちょっと重大な問題だということで、答えさせていただきましたが、</p>



今、中心市街地の幸町に住んでいる方々が、その排気ガスで病気になったというお話をされたので、これは本当にそういう実態だったら大変なことです。それで私の方から調べるということで、そういう形で調べるということです。今、ご質問のあった中身で、観光客がたくさん来ているところの状況ということでないです。現在、何十年も生活している方が、そういうことで疾患が出たということは大変なことです。そういう意味で、この調査を行うということが1点目です。

2点目は、もちろん観光で来た方のそういう大気汚染的なものも含めた中で、例えば、今ある中央保育所なり、麻町保育所と比較すれば、明らかに調査の実態というのが出てくるわけですから、何も観光客が来ている時だけ行う必要性は、通常の平均を見るわけですから、そういう意味での捉え方をすべきと考えています。そういう意味で、患者が出たということは、例えば、噂であるとか確実でない、そういう発言というのは公の場で言うことは大変なことです。住んでいる方に対しても、大変なことを与えるということだから、調査をしてそういう状況でない、ある、こういうことをはっきり申し上げたいということで調査するわけです。今ご質問あった、賑わいのある時に行わないでということであれば、まだ期間はありますから、希望するというお話であれば、そういう祝日や祭日に合わせて、これも追加で行う状況づくりをしてみたいと思います。

【副市長】調査する目的が、今市長の話をしましたように、あそこに疾患の方が出られたというのは、何人かいるというお話をされたので、それではちょっと行政として本当にそういう大気汚染の元となるという物があるのであれば、それは取り除かなければならないということで、調査をしなければならぬ。ただ、どなたというお話はされなかったもので、本当であればどなたですか

経済部・  
保健福祉部

東4条地区の開発のイメージですが、ずっと3月くらいから、議会の中でこども園だけが取り上げられて、それが良いとか悪いとかというような感じになっているように見えますが、商業地域があり、お年寄りの施設があるという説明の中で、今そちらの方はもうGOサインが出ているのでしょうか。本題になっているのは、こども園だけということなののでしょうか。

経済部・  
保健福祉部

ということであれば、もう今説明されていたこの事業は実行することが前提になっているという理解をしてよろしいのですか？

と、その方たちにちょっと聞けば一番良かったのですが、今後ろでマイクを持っていた者がずっと幸町に住んでいます。全然問題ないと本人は言っていますが、そういうことがまずあるということは、ご理解いただきたいと思います。

【中心街整備推進課長】全体的にどうなのかという話ですが、例えば、先ほども話した一街区の個別店舗の再配置の部分については、これはもうほとんど地権者と合意を得ている状況です。それから、7階建てのマンション棟についても、今のところはまちづくり会社の方で計画を進めている状況にあります。それから、1階部分の物販・飲食店の関係ですが、これについても、一応資金計画等については、きちんと今のところできている状況にあります。それから、介護付有料老人ホームについても、38人入る所ですが、それに合わせて先ほど説明していませんでしたが、併設で認可外の保育所、これはあくまでもここの有料老人ホームに勤める人のための認可外保育所を予定しています。それからクリニックや調剤薬局についても、今のところはこの計画通り進む予定です。あと個別の個人住宅の部分ですが、これについても一応今のところはまちづくり会社から計画通り進めていますという話を受けています。ですから、予定どおり進んでいくという感じを受けています。

【中心街整備推進課長】市街地再開発事業全体については、あくまでも、まちづくり会社が事業主体になっている部分です。それに先ほど市長が説明しましたが、国が3分の1、市が3分の1の共同ででき得る部分については、補助を得ながら行うという部分ですが、まちづくり会社が計画している他の部分については、すべて資金計画を作って、地権者の了解を得て実行していく形にな

るので、そういう部分ではそのまま進んで行くと思います。あとは、この総合こども園の部分はどうして行くかという、みなさんからの意見をいただいて、今後進めていく部分が残りますけども。

【市長】今のご質問ですが、行政としては、まちづくり会社から出てきた案というのはアトリウムで出てきました。温浴施設とアトリウムが当初の計画でした。去年の8月に、新聞報道された後に、その温浴施設は採算が合わないので止めるということになりました。行政としては議会でも、温浴の代替でないかというご質問もだいぶいただきました。基本的にアトリウムは11億以上かかります。行政としては、効率的なことと経済性を含めたことを考えますから、仮にここへ保育所を設置するという状況が生まれてきますと、5億2千万円前後で済みます。こども園ということで2つ併せてです。中央と麻町を併せて中心市街地に設置することによって、先ほどから説明させていただいたお年寄りとの交流や商店街の交流だとか、いろいろな形でこども園というのは先ほどお話ししました通り、これからの子どもというのは教育を主体にするというのが国の方針です。ですからそれに沿った形をこれから作っていかねばならないということです。ですから教育というのは、生まれて教育はすぐできませんが、少なくとも3歳くらいからは教育の対象になっていくというのが国の考え方ですから、それに沿って実施をしていくというのが今市の考え方です。行政が行う場合については、議会で申し上げましたが、一つには、多くの状況作りの中で、行政というものは総合判断をしなければなりません。一部の部分を見て、あるいは一部分の意見だけを聞いて行うというわけにはいかないものですから、現在進めていますのが、だいたい16関係団体、そして15の連合会を通じて、31カ所で、あと6カ所くらい残っていますが、そういう形

経済部・  
保健福祉部

すごく温浴施設については楽しみにしていました。突然こうなったので、びっくりしたわけですが、温浴施設の運営会社さんがキャンセルするまでは、市の方はそういう計画にする予定だった

でお聞きをしながら、議会でも申し上げていますが、総合的な判断をして決める必要性があると、このように考えています。

【副市長】それとこの計画自体、総合こども園がもしダメになって止めるとなれば、また整備計画の練り直しになっていき、そして、まちづくり会社がそこに何を置くかというのを、また検討していかなければならない。行政としても、実際、中心市街地活性化の中に、行政の窓口というものがありますから、それも行政として何をするかというのを考えていかなければならないということで、変わることもあり得るということです。今の段階では、総合こども園ということで、みなさんの意見をお聞きしていますが、これが変わった場合、またここの部分の整備計画が練り直されるということです。

【市長】ただその場合に、経済産業省の方から認可を受けているのは5年の事業です。この補助事業を使って行う場合には、5年の事業年数があり、ある程度5年以内にそういう計画をきちんと行ってくださいというのが、補助事業の対象の期限です。これから10年かけて行いますという形には、新しく行うということにはならないということです。もう一つは、まちづくり会社というのは、みなさんお仕事持っている人が大半です。まちづくり会社専門にしているという人は現在いません。ですから、市としても市の活性化を行うのに、市が関わりを持たないで、あなたたちで行ってくださいということには、これは誰が首長になっても、そういうことはできないのではないかとということで、協働で市街地の活性化をやりましょうというのが大きな狙いです。

【市長】市としては、市が出資しているハイランドふらのという温浴施設があります。本当に温泉の施設ですから、体にもすごく良いですし、今相当市も200円を補助して65歳以上の人に入

ということですね。

教育委員会

この前、学校の問題で、麓郷に来た時に、バスの路線の廃止だとか含めて、どういう経緯になっているのか。この辺の問題などを含めて、先ほど市長も教育があって子どもは良い子になると。これは基本でありますから、確かにそうですが、そればかりではないと思います。やはり、子どもというのは親の背中を見て立派になっていくという基本を、最近は忘れていないか。強い子を育てるには、親が見せなかつたら強い子になっていかない。ここにはいられない子ばかりが出るのだと考えています。これからやはり行政が中心になって活性化に持っていくならば、全体像をこの問題も含めて、前向きに取り組んで進めていただきたい。学校の問題で、中学校を閉鎖され無くなるとお年寄りの人たちが聞いて帰って来て、このまま麓郷は無くなるのではないかという言い方していますが、（私が）そうではないと言っても、やはり先頭に立っている（市長の）言葉がなければ。この機会にその辺ひとつ詳しく説明していただきたい。

っていただいておりますが、利用度がすごく高いです。それでそういう競合する状況も生まれてくるので、市としては、できるなら温浴施設でないものということでお話をしていましたが、行う側は採算性が合うということで計画をしたようです。後で聞きますと、利用する（予定）人数（の試算）が違ってたと。というのは、圏域の人口で割り出していたということですから、圏域人口では4万6千人くらいの人口になりますけど、富良野は今2万4千人くらいですから、約倍以上のペースで考えていたというようなお話で止められたというのが本音です。

【教育長】先ほど少子高齢化の中でというお話がありました。実は、就任した平成18年小中学生2300人いました。今は、1973人になり、2000人をきっています。ご承知のように麓郷小学校は今19人です。中学校10人です。ご存知のように、今年中学校の方では教頭先生、養護の先生、結局子どもたちの人数の関係も含めて、配置ができなくなりました。この地域含めて、できるだけそれぞれの地域に学校ということで、これまで取り組みをずっと進めてきています。この地区については、東部地区ということになっていきますので、布礼別も今そういう状態になってきています。平成21年の年からいろいろと協議をさせていただいています。私どもとして、適正規模、適正配置の説明をさせていただいて、できるだけ子どもたちの人数もそうですが、複式でなくて学級編成ができるような形をとりたいということで、これまでもいろいろ議論させていただいて、そしてここ1、2年で、麓郷地区や布礼別地区でいろいろPTAのみなさん方を中心にしながらそれぞれ話し合いをしていただいています。将来を見据えて再編をしていくのか、小学校と中学校をひとつにあわせていくのかという議論をしていただいています。そこで今回

建設水道部

先日、麓郷の取りまとめをして陳情しましたが、その中で防雪柵の設置について、何件か地域から出ていましたが、防雪柵については何年か前に、布礼別に設置したのを最後に最近はしていません。それで、人参の洗い場から先で、非常に厳しい所があって、何回か吹雪の時には吹き溜まりができて、観光客がよく通る道ですが、多少吹き溜まりがあっても怖さを知らないのか、結構突っ込んで行きます。ジャム園から連絡をして除雪車を要請することも度々あります。もう一つは、オルゴールの手前に街灯と防犯灯ですか、ちょうど歩道の前に突き出たところがありますが、それは設置的には問題ないということで、そのまま建っていますが、吹き溜まりを通る時に、滑って衝突しないかという苦情も度々きています。そういうことをあわせて、地域に全部に防雪柵を付け

まとまったのは、小学校と中学校を一つにする方向で持っていっていいのではないかとということで、PTAのみなさんや振興会を中心とするみなさんもいろいろな合意をさせていただいたという状況です。正式には、まだ文章化されていませんが、一応今そういう方向で進んできている。今の計画としては、小学校の方に中学校を持って行ってはどうだろうというお話を聞かせていただいています。いずれにしても、市内の大規模な学校については、人数がかなり増えてきていますが、市外の地域については、こばかりでなく樹海の学校も、実は山部の小学校も中学校も減ってきています。そんな状況の中で、先ほどお話したように以前は、本当に4000人、5000人近くいましたが、今2000人をきって、これから5年後先は1783人、もうだいたい今出生もわかっていますので、そういう状況になってきています。今のうちに、適切な対応を図っていくというようなことを基本にしながら、今取り組みをさせていただいています。

【建設水道部長】人参選果場から共済農場に向けてのお話だと思えますが、あのルートについては今話された通り、吹き溜まりについては、冬の除雪の間には電話をいただいて、かなり雪が降ってなくても吹きさらしで、かなり道がふさがってしまうということで、特にそのルートについてはその都度空けに行くような対応をしています。その辺はよくご承知だと思いますが。あと局部的な風の通り道ということもありますけども、結構上の方もその風の通り道が全体に吹きさらしまするので、防雪柵を付けたら、結構長いスパンになるということは想像できると思います。事業費的にもかかりますので、今後長いスパンで計画を練って対応していきたい。特にそういう局所的なものがあるのであれば、担当の者がよく知っている場所ですので、局所的な所で何と

	<p>るのではなく、風の通り道っていうものがあると思うので、その所だけでも何とか設置できないかなと思い、ご提案させていただきます。</p>	<p>かなるのであれば、そういう検討もしてみたいと考えています。</p>
<p>建設水道部</p>	<p>街灯の部分についてはいかがですか。畑側にちょっとずらしてもらわねばいけません。</p>	<p>【建設水道部長】早速、現場検討させていただきたいと思います。街灯だと思いますが、防犯灯であれば、またいろいろ付けた経緯も含めてあるので、現場を見て検証させていただきます。</p>
<p>総務部</p>	<p>防犯灯ですが、ここ数年来、富良野市全体的な中で、マイマイガの発生だとかクスサンだとかの関係で、結構ナトリウムランプで赤色に換わってきています。そんな中で取り替えず、取り残されている従来の水銀灯、白っぽい防犯灯が付いている所もあり、そちらに集中して来るようになってきます。できれば全体的に赤いナトリウムランプで虫の寄りづらい物に換えることはできないですか。</p>	<p>【総務部長】調査は毎年行っていますので、個別の部分については、確認をして連絡させていただきたいと思います。</p> <p>【副市長】今のようなお話があって、予算の範囲以内で行っていますが、市長がそうではなくて全体的に調査をして、必要な部分については付けましようという話をしてはいますが、そういう形で調査をされていると思っていますので、そこで洩れているのであれば、今のようにまた追加という形になると思います。</p>
<p>建設水道部</p>	<p>麓郷だけではない、富良野市全体の冬の除雪・排雪に関する雪捨て場の件ですが、街の中の雪捨て場は、個人が持って行くなら良いけども業者が持って行くと、なかなか入れてくれないとかってというような感じで言われているのはどういうことなのか。</p>	<p>【建設水道部長】雪捨て場の堆積場所ですが、基本的に雪捨て場所はそれぞれ地区で確保しています。雪については、個人の雪を捨てる場所ということで基本的な考え方を持っています。ですから、それによって商売されている方、営業されている方の雪捨て場は、それぞれ業者さんが自分の土場などの雪を捨てる場所を確保して持って行ってくださいということで、営業されている人の雪についてはお受けしていません。</p>
<p>建設水道部</p>	<p>そういうことが現実ですが、個人でできないからお金を払ってでも、個人でできるのなら、多分みんなトラックでも持って、できる人であれば、そうすると思います。できないから業者を頼んでいるのに、その業者が雪捨て場に入れないというのは、何とか</p>	<p>【市長】考え方として今の質問は、その通りだと思います。それで、行政としてどういう対応するのかということになれば、業者が個人からお金を取って行っているということであれば、そのお金を取っている部分の内から使用料として、業者に対して払って</p>

	<p>対応してもらえないのかと思います。同じ富良野市に降った雪ですから。例えば、業者が中富だとか上富だとかの遠方の雪を富良野市まで持って来てということであれば、それは業者の人が雪捨て場を確保しなさいっていうのもわかりますが、富良野市に降った雪です。それが個人だったら良いと言われても、個人でできないから業者をお願いしている。その雪も捨てられないのであれば、何か対応してもらいたいという気がします。</p> <p>愛知県から富良野が良くて、しかも麓郷が良くて、来て3年目を迎えた者です。ここへ来て国道38号線を走っていて、富良野市役所の看板が無いです。市役所へ行って、意見として書いて入れたら、広報に載っていましたが、まだ対策中でいつごろになるかわからないという話しです。この天下の富良野です。富良野は、全国でも知らない人はいないですから、市役所がどこにあるかわからないような人への道路標識、看板っていうものはできないでしょうか。</p>	<p>もらうというのも一つの方法だと思います。ですから、受け付けないということではなく、そのお客さんから取っている5%なり、あるいは10%なりを支払ってもらうような方法でできないか、来年に向けて検討してみます。</p> <p>【市長】よそから来た人でなかったら気が付かないです。通常生活しているとそれが気付くという状況が足りないということで、お話を聞かせていただきました。国道というのは、富良野は237号線と38号線、そして1本になって入って行くので、これについては広報で回答ということですから、検討していると感じていますので、できれば今そういう意見を受けて、6月議会に補正としてあげる必要があると私自身も考えますので、これは持ち帰りまして前向きに検討させていただきたいと思います。</p> <p>【副市長】同じサインの関係でも、土木現業所もそのまま残っているっていうのもありましたし、実際変わっているのに全然気が付きませんね。</p> <p>【市長】市道の見やすい所に付けるということで検討してみたい。国道は相当なやり方ありますから、市は市道として国道と市道とちょうど接点のところがたくさんありますので、その辺検討してみます。</p>
<p>教育委員会</p>	<p>先ほど、老人クラブ会長さんの方から小中学校の統合の話で指摘がありました。振興会の総会の席で説明させていただきましたが、まだ地域のみなさんには浸透していないと思います。5月15日の桃源郷でその辺の内容を含めたことを書いてお知らせ</p>	<p>【市長】本当に行政もいろいろ考えていますが、これから学校の先生含めて、地元に住んでももらうということを考える必要があると思います。今ほとんど富良野から通っている先生が多いです。地元の交流というものが、やはり昔よりかなり少なくなって</p>



<p>建設水道部</p>	<p>しようと思っていました。</p> <p>先ほど教育長の方からお話あった通りで、中学校の先生の意見だとかいろいろあって、教育環境が悪くなって来たということで、PTA関係のみなさんで検討して決断して検討した結果、こういうふうになったということです。</p> <p>先ほど市長が市役所の看板の件で国道と市道とかっていうような表現の仕方をしたので、お願いですが、確かに管轄が違う中でお互いに縄張りがあると思いますが、麓郷街道出入り口の信号あります。38号線の手前に。信号から踏み切り渡って国道に出るまでの除雪がすごく悪いです。わだちになっています。多分、麓郷側が道道で100m足らずが市道で、そういう関係なのかなと思いますが、こういうのってお互いに行政の中で一括して全部きれいにできないものなのかな。</p>	<p>きているという状況ですから、これからも教育ばかりでなく、地域と先生としての立場を思う存分発揮していただくという状況の中では、先生に赴任していただくような、富良野ばかりでなく任地というのが決まっていれば、そこに住んでいただくような。厳しいかもしれませんが、ここばかりではなくそういう運動の展開をする必要性があるという感じをしていますので、あわせてこれもそれぞれ道の教育委員会、あるいは上川教育局の方に、そういう状況にしていく必要性があるという感じを強くしています。</p> <p>【建設水道部長】麓郷街道の入り口の部分については、ちょうど信号までの間が市道になっています。信号から山部の裏を通って行く道路が北海道で管理している所で、今話された通り市道の管理ということになります。それについては、今年の関係から出口については、また内部検討していきたいと思いますが、道道と市道、市道と国道、その取り合い、その交差分交差分でかぶる所があります。そういう所については、3者協議と言って北海道と市と開発とあわせて、早く入った方が先に行うのでなくて、どういうそのすみわけをするのかという協議を毎年行っていまして、今のご指摘の場所についても、シーズンの始まる前に、協議をして詰めていきたいことでもありますし、市としてもやれることはやっていきたいと思っています。</p>
--------------	---	---